

第69回 西日本 読書感想画 コンクール

九州・山口各県図書館協議会選定
指定図書

小学校高学年5・6年

※価格はすべて税込み価格

西日本読書感想画コンクールは、本を読み、感じたことや考えたこと、心に浮かんだイメージなどを絵に表現することで、読書への意欲を高め、豊かな感性、想像力を育むことを目的に毎年開催しています。前回は約30万点の応募があり、地方での開催としては最大規模を誇ります。



詳しくはこちら

ぼくの こころが うたいます！

アンドレア・ベイティー／作

デイヴィッド・ロバーツ／絵

かとうりつこ／訳

【絵本塾出版】1,760円

アーロンにとって、文字を読むことはとても難しいことでした。アーロンの脳は「発話された音」と、「書かれた文字」や「ことば」を結びつけることがなかなかできないのです。でも、宿題で出された作文に一生懸命に取り組んで、それを勇気を出してクラスメイトに発表した時、アーロンに変化が現れます…。ひとにはそれぞれに得意なことや苦手なことがあり、識字障害はアーロンの個性の一部にすぎないのです。

<選定理由>

わたしたちにはそれぞれ得意なこと、苦手なことがあります。その人となり個性です。このお話を讀んだひとり一人の児童がその想いを表現できたらと思います。



どすこい！

森竺こみち／作 佐藤真紀子／絵

【国土社】1,540円

春の相撲大会、小学生離れたライバルと対戦して、こてんぱんに打ちのめされた凡と健太。秋の大会で絶対にリベンジしたい2人は、元力士のじいさんに相撲を教してもらおうと駄菓子屋「わしや」に行くがまったく相手にされず、知恵を絞る。無骨な元力士とのやり取りにとまどいながらも、少年たちは心を通わせ、秋の大会まで駆け抜けていく。一瞬の勝負に全力を賭けるその姿に、相撲を知らない読者ほど胸が熱くなる物語。

<選定理由>

相撲は児童にとって知る機会が少ないスポーツです。元力士「わしや」に教えを乞います。無口な元力士わしやと小学生が相撲に夢中になります。力強い取組みの描写に期待できます。



じいちゃんの山小屋

佐和みずえ／作 カシワイ／絵

【小峰書店】1,650円

東京で生まれ育った小学6年生の航太。ある日、父親と大げんかになり、四国のじいちゃんと暮らすことになった。ところが、航太のじいちゃんは、村の人に変わり者扱いされるほど頑固で偏屈。そんなじいちゃんと、電気も、トイレもない、もちろんスマホも圏外の山小屋での二人暮らし……。便利な東京での暮らししか知らない航太に、たえられるのか!? 四国の豊かな自然に恵まれた里山でのサステナブルな暮らしが体験できる1冊。

<選定理由>

電気もお風呂もトイレもない、四方を山に囲まれた緑豊かな四国の山の中が舞台です。山小屋生活で、6年生の主人公の少年とじいちゃんとの心の交流と成長が描かれています。



おおなわ 跳びません

赤羽じゅんこ／作 マコカワイ／絵

【静山社】1,540円

左足にハンディをもつ双葉が、おおなわ大会には出ないと宣言し、クラスメイトたちはざわつきます。「引きとめないなんてつめたいよ」「それってやさしさの押しつけじゃね?」「跳ぶ以外のやり方で参加は?」「おれだって跳びたくないけど?」と、立場の違いからぶつかる本音ももつとで…。できることも考え方もちがう仲間と、どうしたら一緒にやっていけるんだろう? とことん考えた7人の自分たちのための作戦が楽しく優しい物語。

<選定理由>

左足にハンディをもつ双葉が大綱大会には出ないと宣言します。クラスメイトたちは、双葉を支えたいけどその方法がわかりません。クラス仲間の挑戦と成長の物語です。



わたしの名前はオクトーバー

カチャ・バーレン／作

こだまともこ／訳

【評論社】1,760円

父さんと二人、森で半分自給自足のよう生きてきた少女オクトーバー。自分が「野生」であることをほこりに思っていた。が、十一歳の誕生日に、父さんがケガをして入院し、「母親とかいう人」と都会で暮らすことになる。街の生活になじめず、全力で抵抗するオクトーバーだが、やがて友だちとよべる子に出会い、都会の中に大好きな場所も見つけ、かたくなだった心が開いていく。すぐれた作品にあたえられる英のカーネギー賞受賞作。

<選定理由>

森で暮らす主人公とその父、巣から落ちたメンフクロウの赤ちゃんを大切に育てています。父親が大怪我を負い入院したことで都会で暮らすこととなります。自然豊かな森の生活がイメージ豊かに描かれています。



かなたの if

村上雅郁／作 げみ／絵

【フレーベル館】1,650円

ぼくらが夢見ることは、ぜんぶぜんぶ、ほんとうのこと——夢と現実のあわいにゆれる、ひと夏のガール・ミーツ・ガール! 友だちのいない香奈多と、友だちをなくした瑚子。ある夏、秘密の場所で奇跡的に出会ったふたり。願いがかなう「虹のしずく」を探して、ひとりぼっちの誰かの前に現れる黒ネコ、ドコカの物語を瑚子は香奈多と分かち合う。それぞれの物語をなぞるように重ねた「もしも」のはてで、ふたりが見つけた宝物とは?

<選定理由>

友だちのいない香奈多と友だちをなくした瑚子を黒猫ドコカが繋ぎ、2人の夢と現実が交錯します。「if」は「もしも」を夢見るわたしの気持ちを表しています。

